

## 社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

【もくじ】

H29.12 現在

地域づくり			
NO	タイトル	法人名・施設名	ページ
1	そよ風事業～多様性を認め、お互いに支え合う地域社会を目指して～ 地域&学校&行政&社会福祉協議会&社会福祉法人との協働事業	社会福祉法人そてつ会 特別養護老人ホーム涼松	2
2	小学校を利用したの福祉啓発活動（ハッピーやすらんど）	社会福祉法人希望ヶ丘福祉会 特別養護老人ホーム横川緑風園	4
3	地域作り「認知症カフェ」の取り組み	社会福祉法人光与会 特別養護老人ホームヨロン園	6
4	転倒ストップ教室	社会福祉法人正栄会 特別養護老人ホーム愛泉園	8
5	いきいき健康教室	社会福祉法人滴々会 特別養護老人ホーム音野舎	10
6	無料送迎バスの運行とバス停留所「ふれあい交流センター きずな館」の開放	社会福祉法人内之浦会 特別養護老人ホーム銀河の里	12
7	地域住民・専門職向けの勉強会や講習会、講演会（ザ介護）	社会福祉法人希望ヶ丘福祉会 特別養護老人ホーム横川緑風園	14
8	ふれあい教室	社会福祉法人正栄会 特別養護老人ホーム愛泉園	16

資源を活かした地域への展開			
NO	タイトル	法人名・施設名	ページ
9	生き生きセンターひまわり園	社会福祉法人中江報徳園 特別養護老人ホームひまわり園	18

複数法人による連携、協働			
NO	タイトル	法人名・施設名	ページ
10	肝付町社会福祉法人連絡会	社会福祉法人肝付町社会福祉協議会 デイサービスセンター国見園	20

地域コミュニティの創造・再生			
NO	タイトル	法人名・施設名	ページ
11	元気なうちに、人とのつながりをつくろう歩いて行ける「街中サロン野の花」の開催 人生100年のモデルになろう	社会福祉法人野の花福祉会 特別養護老人ホームアルテンハイム加世田	22

## 社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

地域づくり			
そよ風事業～多様性を認め、お互いに支え合う地域社会を目指して～ 地域&学校&行政&社会福祉協議会&社会福祉法人との協働事業			
法人名	社会福祉法人 そてつ会	法人創立年	1979（昭和54）年
所在地	〒891-0511 指宿市山川福元 4856-1 電話（0993）35-2131		
法人理念・経営方針	1. 共に生きる地域社会の実現を目指します 2. ご利用者の権利を尊重した支援を行います	法人の実施事業	○経営施設数合計：7施設（第1種2、第2種4、公益1） ○経営施設・事業 特別養護老人ホーム 他介護保険事業 障害者支援施設 他障害者支援事業

活動取組みについて	実施主体の概要	○施設名：特別養護老人ホーム涼松／通所介護事業所岡村さん家 ○定員数：50名／15名 ○住所：南九州市穎娃町別府 5539-1／南九州市穎娃町別府 4845-3
	活動内容	○活動開始年：平成26年 ○活動の対象者：自治会住民、小学6年生、中学3年生 ○活動内容：①地域住民へ高齢者や障害者を理解する学習会 ②児童・生徒へ高齢者や障害者を理解する授業 ③地域&学校合同の声かけ訓練 ④そよ風サロンの開設 ⑤健康料理教室の開催
	主な経費や財源、人員等	○今回の取組みに関わった職員数や職種名 介護職員10名、生活相談員2名、介護支援専門員1名 ○平成28年度は、県の地域貢献活動サポート事業の助成金を活用。社会福祉法人からは、専門職の派遣による人件費の補填を行っている。

### 活動実施の背景、実施にいたった理由

#### 施設が属する岡村自治会における課題

- ①住民の中には、認知症の症状があらわれ、被害的な言動をとる高齢者がみられるようになった。認知症を患う人の増加が予想される中、自治会内では商店や老人クラブが消滅し、住民どうしが日常的に顔を合わせる機会が少なくなっている。このままでは、支援を必要とする人の孤立化が懸念される。
- ②自治会には2つの社会福祉法人があり、高齢者や障害者等支援を必要とする人たちが生活・就労する施設が整っている。一方で、国道沿いに位置しているため交通量が多く、また、細い路地やJR路線の踏切が複数存在する等特に支援を必要とする人が事故にあうリスクが高い。しかしながら、そのような場所について、自治会住民による共有化が十分に図られていない。
- ③加齢に伴い、さまざまな病気や障害をもつようになる。今後は、障害を持つ方が住民の中に存在し、地域で暮らしているという視点が重要になってくる。しかし、人のつながりの希薄化の中で、本人やその家族の課題を住民どうしで共有し理解する場が少ないために、偏見へとつながっていきやすい地域事情になっている。
- ④子どもを持つ家庭では、一人親家庭の増加と

親の面倒を見るダブル介護の家庭もあり、地域の行事に参加することが困難なケースが見られる。



平成26年7月13日（日）

岡村自治会住民を集めて事業の説明会を開催  
課題の共有化を図った

### 取組みの内容

#### ①地域住民へ高齢者や障害者を理解する学習会

これまで、縦割りで行われていた支援を一体的に行う目的で、高齢者や障害者が抱える課題について学ぶ機会を設けた。講師は、2ヶ所の社会福祉法人の職員がそれぞれ務めた。

#### ②児童・生徒へ高齢者や障害者を理解する授業

2ヶ所の社会福祉法人の職員が、地元にある小学校・中学校へ出かけ高齢者や障害者を理解する福祉の授業を行った。



別府中3年生へ福祉の授業。『徘徊』の意味について学習し、新しい訓練名の名付け親となった

### ③声かけ訓練の実施

学習したことをもとに、地域住民と児童・生徒と一緒に道に迷った高齢者や障害者を想定した声かけ訓練を実施。26年度～27年度は『徘徊模擬訓練』の名称で実施。28年度は、『徘徊』の持つ意味を中学生が学習し、適切な訓練名を考案。『～ハッピーサポートプロジェクト～優導模擬訓練』の名称のもと訓練が実施された。



別府小6年生と地域住民合同の声かけ訓練

### ④そよ風サロンの開設

お互いに顔の見える関係づくりを目指して、毎月1回自治会住民が主体となり、高齢者を対象とした「そよ風サロン(お茶飲み交流会)」を開設している。

### ⑤健康料理教室の開催

施設所属の管理栄養士が講師を務め、高齢者でも調理しやすくおいしい減塩食について実習を通して学習した。

### ⑥そよ風ランチの開催

小・中学校の土曜登校日(第二土曜)に合わせて、子どもから高齢者まで一緒に昼食を囲む「そよ風ランチ」を29年10月より開始した。



地元の高校生が、ボランティアで参加しています

協働団体：南九州市地域包括支援センター  
南九州市社会福祉協議会

年度	新たに始めた事業	主催団体
26	地域住民との学習会 声かけ訓練	岡村自治会 (社)そてつ会
27	そよ風サロン 健康料理教室	岡村自治会 南組自治会 (社)そてつ会 (社)更生会
28	小学6年生へ出前授業 中学3年生へ出前授業 児童&生徒&地域合同 声かけ訓練	岡村自治会 南組自治会 (社)そてつ会 (社)更生会
29	そよ風ランチ 福祉相談所	岡村自治会 南組自治会 (社)そてつ会 (社)更生会

## 活動の効果と課題

- ①高齢者や障害者に対する理解を深め、実践活動を行うことで、人の多様性を認め合う意識が醸成された。
- ②福祉を題材にした学習活動を行うことで、子ども達が地域で暮らす人々を理解し、お互いに支え合う関係を作っていくことの重要性を学ぶことができた。
- ③子ども達が主体的に考え、行動することを通して、社会の課題に主体的に取り組む力が養成された。
- ④中学生は、授業の中で『徘徊』の持つ意味について考える時間を設けたことで、言葉からくる差別・偏見について学ぶ機会が持てた。
- ⑤実際に声かけ訓練や情報伝達の訓練を行うことで、地域の課題を共有し、住民の安心・安全の意識の向上につながった。



声かけ訓練2週間前から自治会内へのぼり旗を立てて参加を呼びかけた

## 今後の展開

- ①これまで行ってきた事業を継続させる
- ②お互いを理解し、多様性を認め合う目的で、昼食を提供する場「そよ風ランチ」を開設し、さらに住民どうしのつながりを深めたい
- ③自治会住民の身近な相談所として、2つの社会福祉法人の専門職を中心に「福祉相談所」を開設予定

## 社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

地域づくり			
小学校を利用したの福祉啓発活動（ハッピーやすらんど）			
法人名	社会福祉法人希望ヶ丘福祉会	法人創立年	昭和 53 年
所在地	〒899-6303 鹿児島県霧島市横川町中ノ 5645-1 電話番号：0995-72-1010		
法人理念・経営方針	<p>&lt;基本理念&gt; 愛・夢・学</p> <p>&lt;経営方針&gt; ご利用者が個人の尊厳を保持し、その有する能力に応じて自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援する。</p>	法人の実施事業	<p>○経営施設数合計 4 施設</p> <p>○経営施設・事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別養護老人ホーム：1 カ所</li> <li>・地域密着型特別養護老人ホーム：1 カ所</li> <li>・グループホーム：1 カ所</li> <li>・小規模多機能ホーム：1 カ所</li> <li>・保育園：1 カ所</li> </ul>

活動取り組みについて	実施主体の概要	<p>○施設名：特別養護老人ホーム横川緑風園</p> <p>○施設種別（定員数）：50 名</p>
	活動内容	<p>○活動開始年：平成 25 年度</p> <p>○活動の対象者：地域住民</p> <p>○活動の頻度・時間：年 1 回・9 時～14 時</p>
	主な経費や財源、人員等	<p>○今回の取り組みに関わった職員数や職種名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・30 名、（施設長・生活相談員、介護支援専門員、介護職員、看護師）</li> </ul> <p>○取り組みを実施している施設の事業規模</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市から 10 万円の補助金、法人から 3 万円の支出とイベントに必要な物品等の貸出し。</li> </ul>

### 活動実施の背景、実施にいたった理由

法人がある霧島市横川地区は年々、人口減少が進み高齢化率が高くなっている。企業も縮小、撤退する中、法人が現在、進めていることは地域住民や団体とのコラボレーションである。職員は地域行事へ積極的に参加し、地域で行う行事も共同で行う等、地域の方々と共に作ることを意識して活動している。夏祭りは地元、商工会の方々とも協力し合い、法人が主催する夏祭りに地域の方々にボランティアで来て頂いたり、職員は町の夏祭りにスタッフとして参加したりして、行事等も地域の各種団体とコラボレーションして進める形をとっている。

人口減少は進んでいるが、高齢化率は高く、認知症の出現率も霧島市では最も高い割合となっており、徘徊し行方不明になるケースもある。法人として地域住民への認知症の啓発活動の必要性を考えていたため、平成 22 年度に徘徊模擬訓練（名称：どけ行つたる徊？徘徊模擬訓練）は霧島市で最初に取り組んだ。その後、福祉の啓発活動を行うための行事（名称：ハッピーやすらんど）は法人が事務局になり、25 年度から 27 年度まで 3 年間実施した。霧島市では中心地である国分、隼人地区で大きなイベントは開催されるが、中心部から離れている横川の住民は参加しづらい環

境にあり、参加することを諦めている人もいる。「田舎でも福祉のイベントが出来るのではないか？」との思いで実施した。

### 取り組みの内容

<内容>

- ① 認知症の介護劇
- ② 認知症〇×クイズ
- ③ 高齢者疑似体験等の様々な体験ブース
- ④ 食事の販売ブース等

<対象者>

主には横川町住民で子どもから高齢者まで幅広い世代を対象。子ども達には早くから福祉に興味を持ってもらい、将来、福祉の仕事を目指して欲しいような働きかけも行いたかった。

<取り組みの具体的手法>

- ① 全学年複式学級の安良小学校の体育館、運動場を使用し開催。
- ② 市役所、地域包括支援センター、民間福祉事業所、社協、民生委員、小学校校長、町おこし代表、法人職員等で実行委員会を設置。実行委員長は法人職員が担当。
- ③ イベントには福祉系の高校、リハビリ系の専門学校生徒も参加し、各ブースを担当。
- ④ イベント当日、法人職員は各ブースを担当。

### <取り組み期間>

2月開催に向け、11月から実行委員会を立ち上げ、月に2回～3回の頻度で実行委員会を開催。

### <開催時間>

10時～13時30分

### <費用>

- ① 霧島市から認知症啓発活動に対して10万円の補助金。
- ② 法人から活動費不足分3万円負担。

### <活動成果のポイント>

福祉のイベントに小学校校長、町おこしの代表者、民生委員を入れることで、柔軟な発想で自由に議論し、住民が参加したいと思えるようなイベントを作ることができた。小さな学校を舞台としたことで、子どもたちやPTAの方々の協力を得ることができた。



## 活動の効果と課題

### <効果>

- ① 小規模校に多くの人が集まることで学校や地域に活気が生まれた。
- ② 福祉関係者だけでなく、小学校や住民の方々とコラボレーションすることで、福祉に対する理解が生まれた。
- ③ 子どもたちが、福祉系やリハビリ系の高校や専門学校の学生とふれあうことで、福祉が将来の職業の選択肢の一つになったのではないかと。
- ④ 当日は一般参加者が約130名、スタッフを入れると小さな小学校に200名超の人が集まった。

### <利用者、職員、地域の反応>

- ① 法人職員は地域に出て、地域の方々と触れ合うことで、高齢者福祉での自分たちの役割を理解できた。
- ② 地域の方々は認知症や福祉のことを体験しながら学ぶことができ、楽しかったとの感想があった。
- ③ 施設入居者も参加したが、地元の方々との交流ができてうれしそうだった。

### <課題>

- ① 広報の手段はチラシの回覧等で行ったが、住民に対する説明が事前にできていたら、もっと多くの方が集まったのではないかと。
- ② 土曜日に開催したが、子ども達がスポーツのクラブ活動に参加するため、当日、参加できなかった子ども達もいた。
- ③ 学校開催で、校長先生、教頭先生は当日も参加してくれたが、他の先生達の参加が少なかった。

## 今後の展開

安良小学校で25年度から27年度まで3回開催してきたが、他の2校の小学校での開催も期待されている。小学校の開催では校長先生の理解と地域住民の熱い思いが必要とされる。地域での福祉イベントは法人だけではできないのではなく、団体や人とコラボレーションしないと開催できない。今後も地道に関係づくりを行いながら、住民の方々が必要とするイベントを開催していきたいと思う。



## 社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

地域づくり			
地域作り「認知症カフェ」の取り組み			
法人名	社会福祉法人 光与会	法人創立年	昭和 51 年 2 月 10 日
所在地	〒891-9301 鹿児島県大島郡与論町茶花 2179 Tel : 0997-97-2285		
法人理念・経営方針	地域の福祉サービスの拠点として皆さんから「愛される」「信頼される」施設 利用者が自分らしく安心して利用できる施設作りを目指し、職員が一丸となって、利用者に満足していただけるサービスの提供に努める。～自分が利用したいと思える施設づくり～	法人の実施事業	○経営施設数合計 1 施設 ○経営施設・事業 第 1 種社会福祉事業 特別養護老人ホームヨロン園 第 2 種社会福祉事業 老人短期入所 公益事業 居宅支援事業

活動取り組みについて	実施主体の概要	○施設名：茶～ぬみ処 ヨロン園 ○施設種別（定員数）：認知症予防、地域貢献委員会
	活動内容	○活動開始年：H 2 8 ・ 8 月開始 ○活動の対象者：6 5 歳以上高齢者その家族 不特定多数 ○活動の頻度・時間：毎月第 3 土曜日 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0
	主な経費や財源、人員等	○今回の取り組みに関わった職員数や職種名：認知症予防、地域貢献委員会メンバー 6 名 介護スタッフ・看護師・居宅介護支援事業所ケアマネ、施設相談員兼ケアマネ ○取り組みを実施している施設の事業規模：認知症予防、地域貢献委員会の一環 ○法人全体の事業規模： 1 事業（社会福祉事業）1 拠点（ヨロン園）で法人本部 介護老人福祉施設 短期入所生活介護 居宅介護支援サービスを提供している。

### 活動実施の背景、実施にいたった理由

H26 年 10 月より本町で医療連携チーム、認知症に係る事業所等、行政、包括支援センターにて認知症ケアパス検討会が実施される。与論町の介護保険状況、認知症とオレンジプランについて、認知症ケアパスについて、「認知症になってもこの島（与論）で住み続けるにはどうしたらいいか？また、どんなことが出来たらいいか？どんなものがあたらいいか？」意見交換会を行う。そんな中認知症カフェが上がり、自分が、施設が取り組めることを考えたら認知症カフェなら出来るのではないか？今まで現場で勉強してきた事を生かせるのではないかと考える。

- 私たち介護保険関係者に求められるものとして、
- ① 所内や地域での連携
  - ② 本人の力を引き出す（改善や卒業を考慮）介護の取り組みやさりげない見守り
  - ③ 介護支援が必要な人へのプロによるあたたかい介護やちょっと支援が必要な人へのボランティア活動
  - ④ 在宅介護の担い手が倒れたり、介護離職しないようにする支援
  - ⑤ 地域の人々への介護方法の指導やアドバイス、介護の心構えや尊さを啓発
  - ⑥ 施設を開放したり、地域の人も入りやすくし、

ボランティア育成の支援や次世代の担い手の育成

- ⑦ 住民のひとりとして地域包括ケアを担う。

以前は運動会や介護講習など実施してきたが、当時、施設では地域貢献活動を特に実施してはならず、地域に開かれた施設ではなかったのが現状だった。

早速認知症カフェ開催に向け提案書を理事長へ提出し、認知症カフェ開催に向けて実行委員会立ち上げを全職員へ周知公募した。

与論町地域包括支援センターへ認知症カフェ開催を報告連絡し、与論町高齢者元気度アップ・ポイント事業活動登録申請を受ける。

### 取り組みの内容

#### 【具体的内容】

- ・住民参加型カフェ
- ・参加費 50 円による、お茶と手作りお菓子の提供
- ・認知症について勉強会、相談窓口
- ・認知症予防、口腔機能予防レクレーション、体操、ゲーム
- ・歌声喫茶
- ・音楽鑑賞

- ・医師や指圧師を招いての講習

【取り組みの手順】

居宅介護支援事業所ケアマネが指揮を取り、参加者の人数や状況に合わせて活動内容をその都度変更。

【対象者】

65歳以上高齢者、認知症患者とその家族

【取り組みの時間や期間、場所】

毎月第3土曜日 14:00～16:00

基本 特別養護老人ホーム園内

各公民館

【取り組んだ職員数や構成】

H28年8月～H29年3月までは認知症実行委員会ボランティアメンバーを職員間で募り、自分の休み時間を利用して実施。

その日よりムラがあるものの、スタッフ最低3名で実施。時によりボランティアを外部に募り、包括支援センタースタッフ、指圧師、医師、前特別養護老人ホーム職員、社会福祉協議会通所介護事業所職員、他居宅介護支援事業所ケアマネがボランティアスタッフとして参加協力あり。

H29年4月から園の取り組みとして職員会議で話し合い、認知症予防、地域貢献活動を立ち上げる。毎月第3土曜日認知症予防、地域貢献活動委員会メンバーが勤務の都合で関わることが出来ないため、毎回介護主任と相談し、その日の勤務上参加可能なスタッフを2・3名依頼。基本居宅介護支援事業所 ケアマネが毎回参加し、指揮を取る。



【部署間の連携】

H28年8月～H29年3月までの認知症カフェ実行委員会時は毎月カフェ開催前、委員会を開催し、報告書にて各職員へ周知。

H29年4月から園での取り組みとして職員会議で話し合い、認知症予防、地域貢献委員会を立ち上げ。不定期に委員会を開催し、報告書や職員会議にて変更内容を周知。

【必要とした道具や費用】

- ・参加費 50 円の中からカフェメニュー経費は捻出し、不足部分は特別養護老人ホームヨロン園経費にて補う。
- ・コーヒーカップや急須、湯のみ茶碗、ポットは園に常備されていたものを使用。
- ・テーブルクロス、お皿、スプーンは園の備品として購入。
- ・レクレーションで使用した、画用紙、模造紙は園の備品として購入。

【活動成果を出すポイントとなった点】

- ・全面的な医師の協力 毎回ボランティア参加や

患者への招待状の配布。

- ・与論町高齢者元気度アップポイント事業活動登録
- ・ポスター製作、のぼり旗製作、招待状製作周知
- ・参加者からの口コミ

## 活動の効果と課題

- ・活動を開始してからまだ、1年が経過していないため、まず継続する必要性を感じている。
- ・誰でも気軽に参加出来るように、不特定多数で参加者を募っているが、町民全体の周知が浅い現状があり、参加者が毎回同じメンバーと偏っている。
- ・参加者周知に気軽に声を掛けたいのが現状だが、開催場所が特別養護老人ホーム園内とのこともあり、躊躇する人がいるのが現状であり、参加者に知り合いを誘って欲しいと声かけ実施している。
- ・提供型ではなく、参加者が取り組みたいことを自由に提案出来る場の提供。
- ・自由に出掛けられる場の提供。
- ・参加して良かったと思えるような環境作り。
- ・認知症予防勉強会を活動内容に組み込んでいきながら、予防に重点を置いていく。
- ・職員が社会福祉法人として地域貢献について何が出来るか常に考えることが出来る様にしていく。

## 今後の展開

- ・継続の重要性、必要性
- ・開催者自らが創意工夫し、自らが開催を楽しみ取り組むこと。
- ・参加者からの要望・希望を重視し、その都度活動内容をレベルアップ、充実したものとしていく。
- ・ボランティア精神。



社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

資源を活かした地域への展開 地域向けの勉強会や講習会、講演会			
転倒ストップ教室			
法人名	社会福祉法人 正栄会	法人創立年	昭和 54 年 10 月 4 日
所在地	〒891-1103 鹿児島市川田町 1090 番地 099-298-8153		
法人理念	社会福祉法人正栄会は、各施設の一層の充実を図るとともに、利用者の個々の意思を尊重し、多様な福祉サービスを総合的に提供していけるよう創意工夫に常に務めることにより、利用者が、個々の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営んで行くことが出来るよう支援することを目的とする。	法人の実施事業	<u>介護老人福祉施設愛泉園</u> ・特別養護老人ホーム愛泉園 ・愛泉園短期入所生活介護事業（介護予防） ・はつらつ元気づくり教室事業 ・高齢者栄養改善事業 ・ひとり暮らし高齢者等短期入所事業 ・正栄会福祉有償運送事業
経営方針	(1) 社会福祉法人として、高齢者及び障害者に対する福祉サービスを幅広く提供し、かつ地域住民のニーズをたえず把握するよう努めることにより、地域社会に貢献する。 (2) 各施設間の情報交換を密に行うことにより、利用者の多元的ニーズに応える。 (3) 利用者が各施設を健康で安心して利用できるよう、医療、保健その他の関連機関との連携を図る。 (4) 施設内外の研修を計画的に行うことにより、各施設の職員及びサービスの質の向上に努める。 (5) 施設的环境整備を図り、充実した福祉サービスを提供する。		<u>愛泉園デイサービスセンター</u> ・通所介護事業（介護予防） ・愛のサロン ・訪問介護ステーション愛の泉（介護保険・介護予防・障害者総合支援事業） ・愛泉園訪問入浴介護事業（介護予防） ・ほほえみ愛隊「まごの手ーション」 ・まごころ訪問給食サービス ・愛の宅配弁当 ・愛泉園在宅介護支援センター居宅介護支援事業所
			<u>グループホームふるさとの家郡山</u> ・グループホームふるさとの家郡山 ・デイサービスふるさとの家郡山
			<u>障害者（児）通所施設アリス</u> ・ミニオンヌアリス（児童発達支援事業・保育所等訪問支援事業） ・アミュザントアリス（生活介護事業・日中一時支援事業） ・プレザントアリス（放課後等デイサービス事業） ・ジャンティユーアリス（重症児放課後等デイサービス事業） ・エマーブルアリス（指定障害児相談支援事業・指定特定相談支援事業） ・正栄会総合相談支援センター

活動取組みに ついて	実施主体の概要	○施設名：障害者(児) 通所施設アリス ○施設種別（定員数）：正栄会総合相談支援センター
	活動内容	○活動開始年：2004年12月 ○活動の対象者：介護保険非該当者 ○活動の頻度・時間：平成28年度10回実施(月1回1時間程度)
	主な経費や財源、人員等	○今回の取組みに関わった職員数や職種名 職員数：1～2名 職種名：相談支援専門員・介護職員 ○取組みを実施している施設の事業規模 法人内の機能訓練室 ○法人全体の事業規模 法人本部拠点他4拠点事業活動 従事員数 総数 約150名



## 活動実施の背景、実施にいたった理由

始めた当時、郡山地区に高齢者がリハビリなどの機能訓練をする場所がなく、当法人の在宅介護支援センターで転倒ストップ教室等の活動を行ってきました。

介護保険制度が始まり、在宅介護支援センターの廃止に伴い、リハビリの場として当法人が独自で始めた事業。訪問活動により閉じ込めりがちな方々に声掛けを行っています。

## 取り組みの内容

体操等の他、握力測定、5m歩行等の体力測定を実施。また、マシンを利用した機能訓練を行っています。

～プログラム・メニューの内容～

- ・バイタル測定
- ・準備体操
- ・らくらく体操  
(マシン9台を利用した機能訓練で1台あたり3分程度行っています。その人のペースに合わせて使っていただいています。)
- ・終わりの体操

- 1回あたりの参加者数は5名程度
- 月1回の開催
- 費用負担は無料
- 法人の広報誌(年4回発行)活動の紹介、案内等しています。
- 開催日の1週間前より電話で参加の有無を確認しています。



## 活動の効果と課題

マシンを使った機能訓練等を行うことで参加された方は、「体を動かすことが出来てよかった。」「この次もよろしくね。」など充実された様子です。身体能力の維持、向上の目的のほか、参加者同士のコミュニティの場となっています。



転倒ストップ教室は、介護保険の非該当者を対象としていますが、ご家族やご友人など、その方を取りまく関係者の方に知っていただき、参加につなげていきたいです。

活動を開始してから閉じ込めりがちな高齢者の方々に参加していただくことで、筋力低下、認知証の予防に少しでもつながっていると思います。

## 今後の展開

民生委員や長寿あんしん相談センター等とも連携を図り、定例会の広報などを通じて、地域の方々に当法人の活動や取り組みを知っていただきたいです。

地域の介護予防の場として認知してもらえるように、今後新たな受講者の参加を増やし、健康作りや社会貢献としての役割を果たしていきたいです。

## 社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

地域づくり			
いきいき健康教室			
法人名	社会福祉法人 滴々会	法人創立年	平成9年9月24日
所在地	〒897-0302 鹿児島県南九州市知覧町郡 2072 番地 2		☎ 0993-58-7171
法人理念・経営方針	1, 「利用者主体」の思想に基づいた専門的ケアの確立（全事業所） 2, ケアプランに基づいた「安全」なサービスの提供（施設サービス事業部） 3, 個々の生活基盤に基づいた居宅サービスの提供（居宅サービス事業部） 4, 相談・各種支援活動をとおしてのサービスの総合窓口の確立（相談・支援事業） 5, 清潔で明るく、さわやかな接遇・サービスの提供（職員） 6, 共に手を携え協働し、あるいは切磋琢磨し自己を高めあい、魅力的で競争力のある施設づくりをめざし、成長し続ける施設として経営基盤の強化を図る	法人の実施事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別養護老人ホーム（定員 50 名）</li> <li>・ 短期入所生活介護事業（定員 15 名）</li> <li>・ ケアプランセンター（居宅介護支援事業）</li> <li>・ デイサービスセンター（定員 30 名）</li> <li>・ ヘルパーステーション</li> <li>・ 訪問看護ステーション</li> <li>・ グループホーム（定員 18 名）</li> <li>・ 小規模多機能ホーム（登録定員 29 名）</li> <li>・ ケアハウス（定員 20 名）</li> </ul>

活動取り組みについて	実施主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別養護老人ホーム 音野舎</li> <li>○ 施設種別（介護老人福祉施設，定員 50 名）</li> </ul>
	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動開始年：平成15年5月から開始</li> <li>○ 活動の対象者：地域の高齢者および高齢者を抱えるご家族</li> <li>○ 活動の頻度：開始年度は年4回，現在は年4回×2班 時間：10:00～13:00</li> </ul>
	主な経費や財源、人員等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1回あたりの経費：25,000～30,000円（食材費，会場使用料等）</li> <li>○ 取り組みに関わった主な職員：栄養士2名，看護師</li> <li>○ 取り組みに関わった補助的な職員：居宅介護支援事業所職員，デイサービスセンター，ヘルパーステーション，訪問看護の職員</li> </ul>

### 活動実施の背景、実施にいたった理由

介護保険制度が始まり、それまで地域にむけて在宅介護支援センターを中心に取り組んでいた「介護予防教室」がなくなり、また在宅介護支援センター自体も居宅介護支援事業所に吸収される形で事業の廃止を余儀なくされました。

そのような中で、要支援者や要介護者に対する介護相談等は居宅介護支援事業に引き継がれ、また「介護予防教室」に代わって「転倒予防教室」が開催されるようになったが、介護保険制度の被保険者でない高齢者やその家族に対して、福祉施設を持つ専門性を還元できないかという意見が職員から挙がり、栄養士や調理員の持つ専門的な知識や技能を地域の方々に伝えていくことになりました。

### 取り組みの内容

開始当初は「音野舎いきいき健康教室」で楽しく学びませんか？という案内のもと、季節の旬の食材を使って生活習慣病の予防や高齢者の皆様に適した調理方法の実習と、福祉や介護保険の制度を学びながら楽しく仲間づくりができることをねらいとして始めました。

主な内容は、以下のとおりです。

- ① 開会前 バイタルチェック，健康相談
- ② 10:00～11:00 福祉や介護保険制度を学ぶ  
健康体操など
- ③ 11:00～12:00 調理実習
- ④ 12:00～13:00 試食，意見交換

①では、受付を終えた受講者で希望する方に対して、法人内事業所の看護師がバイタルチェックや健康に関する相談を受け、日頃不安に思っていること等をお聞きして不安の解消に努めます。

②では、法人内の各事業所の職員が交代で介護保険制度について講演したり、手軽にできる健康体操を指導し、受講者に実践していただくことで法人の持つ専門性を還元していきます。



健康体操

③では、年4回（春・夏・秋・冬）の開催に合わせて季節に合った献立や旬の食材を使った高齢者向けの調理方法を学びます。



調理実習

④では、調理したものを食べながら①や②についての意見交換をすることで仲間づくりをしていきます。

年末には音野舎の交流センターにて2班合同の忘年会を開催し、会員間の交流を深めています。

### 活動の効果と課題

健康教室を始めた頃は30名程度の参加者でしたが、受講者の方のロコミで徐々に数も増えていき、現在は30名ずつ2班に分け約60名の会員制で実施しています。

受講者からは旬の食材を使った料理や、手軽に求められ、季節を感じる食材を知らながら栄養不良を避けることをモットーに、簡単にできるメニュー作りと調理を実施しています。試食を兼ねた昼食会でも、家族や介護をされている近所の方にも教えることが出来ると喜ばれています。

福祉の制度や介護保険制度を学ぶことについても、行政が集落等で行なう説明会と異なり、近所の方がいないので今自分が不安に感じている

ことについて質問がしやすい、事例を交えての説明があり、具体的で分かり易い等の意見も頂いています。

また、健康体操等についても、食事前に身体を動かすことで食事を美味しく頂ける、家の中でも手軽に出来る健康への意識も高まってきた等の意見が寄せられ、毎日無理せず続けておられる方も多いようです。

以上のことから受講者の評価も高いものと考えられます。

### 今後の展開

現在は、受講生の中から①夏祭りの前に施設内の草取り、②敬老会やクリスマス会の時の手伝い、③洗濯や縫い物の手伝い、④入居者の話し相手、等の幾つかのボランティアグループができており、今後は無理のない範囲で法人のボランティアとして組織化していくことを考えています。



ボランティア活動

また、受講申込も増えていますが、会場は隣接する南九州市の保健センターの調理実習室を借りて開催しています。調理実習場の確保や1回あたりの受講生が大勢になり過ぎると調理実習に参加しづらい等の問題もあり、現状を維持していくのが精いっぱいという状況です。

平成26年度からは、市の実施する「高齢者健康度アップ・ポイント事業」のポイント対象事業に登録して、受講者にはポイントが付与され、年度末にはポイントを商品券（上限5,000円）と交換できるなど、「いきいき健康教室」も市の健康づくり事業にも貢献しています。

- 今後は上記の点を踏まえながら、
- ① ボランティアの組織化を図り、生きがいを進めていきます。
  - ② 現在の受講者以外の新たな受講者の参加を増やし、健康づくりや社会貢献の一助としての役割を果たしていきます。
  - ③ 社会福祉法人として、地域の福祉や特に高齢者の方々の介護予防に貢献していることを認知していただけるように積極的な取り組みを続けていきます。

## 社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

地域づくり 地域課題等の解決に向けた取り組み			
無料送迎バスの運行とバス停留所「ふれあい交流センター きずな館」の開放			
法人名	社会福祉法人 内之浦会	法人創立年	平成 2 年
所在地	〒893-1401 鹿児島県肝属郡肝付町北方 588 番地 TEL 0994-67-3312		
法人理念・経営方針	<p>&lt;法人理念&gt; 太陽をいっぱいあびて、明るく広々とした中で花と緑に囲まれ、お年寄りの心に届く介護をめざします。</p> <p>&lt;経営方針&gt; 思いやりと優しさに満ちた、明るく楽しく家庭の香りがする地域と共にある施設</p>	法人の実施事業	<p>○経営施設数合計 4 施設</p> <p>○経営施設・事業 介護老人福祉施設 通所介護 認知症対応型生活介護 診療所</p>

活動取り組みについて	実施主体の概要	<p>○施設名：特別養護老人ホーム 銀河の里</p> <p>○施設種別（定員数）：60 名</p>
	活動内容	<p>○活動開始年：平成 20 年</p> <p>○活動の対象者：内之浦地区一円の高齢者</p> <p>○活動の頻度・時間：週 / 5 日 午前と午後往復 1 本</p>
	主な経費や財源、人員等	<p>○今回の取り組みに関わった職員数や職種名 送迎担当職員：2 名</p> <p>○経費：バスリース代 / 燃料費 / 車両維持費 / 人件費 / 光熱費（きずな館）</p>

### 活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人の設立以前から、内之浦地区においては、僻地という言葉で表現されるように山間部に囲まれ、何処に行くにも何らかの交通手段が無ければ、自宅から病院を含む公共施設への立ち寄りや買い物すら困難な状況に陥るような地域であった。

自家用車を所有されている世帯においては、特に問題視される事ではないように思われるが、自家用車以外で我が町の公共交通手段としては、以下の 2 つしか選択の余地が無い状況である。

- ① 近隣市内までの公共バスの運行が（日 / 2 往復：午前と午後）あるが、本数も少なく自宅から最寄りのバス停までの距離が遠い方々が多い状況
- ② 個人タクシー会社が 1 つしかない状況

以上の現状を踏まえ、僻地である我が町の高齢者にとっては、日常生活上・社会生活上の交通アクセスが必要不可欠であり、それに伴う交通手段の確保も社会福祉法人の地域における公益的な活動の一つと考え、取り組みに至る。

### 取り組みの内容

#### 1. 取り組みの具体的な内容

僻地での交通手段として、法人所有バスを使用した送迎援助

2. 対象者
 

旧内之浦町一円の高齢者

※ 広報方法については、毎月一円の振興会長へ運行書面を通知し、地域の高齢者へ周知することとしている。
3. 目的
  - ・ 交通手段困難高齢者への交通アクセスの確保
  - ・ 閉じこもり予防と日常生活の質の向上
4. 取り組みの具体的な手法
  - ・ 担当職員によるバス運行の調整と送迎
  - ・ 無料送迎バス運行利用についての広報活動
5. 取り組み時間や期間
  - ・ 午前と午後往復 1 本
  - ・ 毎週（月～金）
6. 取り組みの手順
  - ① 目安運行経路の書面を周知
  - ② 発着場所を、この地域に一箇所しかない診療所に隣接する『ふれあい交流センターきずな館』とし、途中郵便局や銀行、お店等を経由した運行とする。
  - ③ 『ふれあい交流センターきずな館』は、無料送迎バスの待合所として無料開放。  
（『きずな館』には一定の人員が集うスペースがあるため、地域住民の交流の場や災害発

生時の避難場所としても活用されており、地域住民にとっても馴染みの交流場所となっている。）



ふれあい交流センター『きずな館』

7. 取り組んだ職員数や構成  
送迎担当職員 2名
8. 部所間の連携  
バス利用者の連絡と調整
9. 必要とした道具や費用など
  - ・法人バス利用



- ・ふれあい交流センター『きずな館』の利用

10. 活動成果を出すポイントになった点  
我が町の高齢者にとって、日常生活上・社会生活上の交通手段の一つとして外出困難ケースの救済ができた。

### 活動の効果と課題

1. 取り組みの効果と数値
  - ・特別養護老人ホームへ面会利用者も増え、入所者の地域との関わりや活性化も図られている。
  - ・外出時だけでなく、日常的に個人的な交流が図られている。
  - ・地域高齢者の交流に活発的な変化が見られ、隣近所が離れていて孤立されている集落の方々が、時間を調整して一緒に外出されるようになった。
  - ・疎遠だった近親者同士との交流も図られるようになった。
  - ・地域の診療所が身近な存在となったことで、健康面への意識に向上が見られた。

※曜日別(直近1ヶ月往復)の利用者数

月	火	水	木	金	合計
87	53	49	81	71	341名

2. 効果や取り組みに対する利用者や職員、地域などの反応、自己評価
  - ・無料バスの運行に対して、利用者からは『車を

運転できないことから、遠出するのに困っていたから助かっている。』『身内や友達が老人ホームに入所しているから、気軽に会いに行けるようになって助かっている。』『銀行や買い物に中々行けずに困っていた。』『友達と一緒に遠足のつもりで外出が出来て楽しい。』『待ち時間の退屈や寒暖や雨風の心配もせずに、皆と一緒に楽しい時間を過ごす事ができる。』など感謝の言葉を頂いている。

- ・無料送迎バスの運行により外出支援だけでなく地域に新しいネットワークが生まれ、『きずな館』の利用で新しい交流が図られている。
- ・職員：『仕事として行っている事だが、送迎の都度、利用者の皆さんから、喜びや感謝の言葉を頂けるため、やりがいを感じている。』

### 3. 課題

- ・日によっては、乗用車で対応できる人数の場合がある。※利用者の偏り
- ・自宅や指定された場所までの道幅が狭く、バスの乗り入れが困難な場所がある。

### 今後の展開

引き続き、無料バスの運行を行う予定であったが、日によって利用者数の偏りがある事と僻地特有の道路(自宅までの道路がバスでは侵入できない場所が増えている事)を踏まえ、8月より下記内容へ変更して継続した援助を行う。

- ①自宅や指定された場所までの道幅に配慮  
→中型バスから10人乗ワゴン車へ変更する。
- ②利用者数の偏りに配慮  
→希望者は電話連絡による『予約制』として利用者の調整(座席数/運行方面)を行い運行する。
- ③出発時間までの待機時間に配慮  
→無料送迎バスの出発時間までの待機場所として、ふれあいセンター『きずな館』を控え室として無料開放を継続し、待ち時間を単に待合室や交流場としての利用だけでなく、今後は、その時間に健康体操や各種講座等の実施を検討する。

## 社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

地域づくり			
地域住民・専門職向けの勉強会や講習会、講演会（ザ介護）			
法人名	社会福祉法人希望ヶ丘福祉会	法人創立年	昭和53年
所在地	〒899-6303 鹿児島県霧島市横川町中ノ5645-1 電話番号：0995-72-1010		
法人理念・経営方針	<p>&lt;基本理念&gt; 愛・夢・学</p> <p>&lt;経営方針&gt; ご利用者が個人の尊厳を保持し、その有する能力に応じて自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援する。</p>	法人の実施事業	<p>○経営施設数合計 4施設</p> <p>○経営施設・事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別養護老人ホーム：1カ所</li> <li>・地域密着型特別養護老人ホーム：1カ所</li> <li>・グループホーム：1カ所</li> <li>・小規模多機能ホーム：1カ所</li> <li>・保育園：1カ所</li> </ul>

活動取組みについて	実施主体の概要	<p>○施設名：特別養護老人ホーム横川緑風園</p> <p>○施設種別（定員数）：50名</p>
	活動内容	<p>○活動開始年：平成26年度</p> <p>○活動の対象者：地域住民、専門職</p> <p>○活動の頻度・時間：年1回・9時30分～15時30分</p>
	主な経費や財源、人員等	<p>○今回の取組みに関わった職員数や職種名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・80名、（施設長・生活相談員、介護支援専門員、介護職員、看護師）</li> </ul> <p>○取組みを実施している法人の事業規模</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業費1回目200,000円、2回目110,000円、3回目125,000円</li> </ul>

### 活動実施の背景、実施にいたった理由

法人がある霧島市横川地区は年々、人口減少が進み高齢化率が高くなっている。法人は地域のサロン等で学習会等を行ってきたが、霧島市の中心部の国分、隼人地区に比べると研修や講演会等、学ぶ機会が少ない現状にある。法人職員や近隣の事業所職員も研修の機会が少ない状況にあった。施設には家族を含めた多くの方が来園されるが、地域の方々の中には施設に足を運んだことがない方も多くいた。

このような背景があり、地域住民、専門職向けの研修会（名称：ザ介護）を企画した。

### 取組みの内容

#### 1回目

テーマ：介護の様々なかたちを考える

<内容>

- ① 認知症講演（中迎聡子氏）
- ② 体験ブース
  - ・楽ワザ介護
  - ・リフレクソロジー
  - ・介護ロボット
  - ・回想法
- ③ 辛島美登里氏とトーク「認知症介護」&ライブ

#### 2回目

テーマ：笑いと喜び

<内容>

- ① 体験ブース
  - ・音楽療法
  - ・笑いヨガ
  - ・楽ワザ介護
- ② 展示コーナー
  - ・認知症見守り機器
  - ・ソフト食

#### 3回目

テーマ：伝える

<内容>

- ① ミニ音楽会（松陽高校音楽部）
- ② 体験ブース
  - ・広報誌の作り方
  - ・キャミアップ（記録共有機器）
  - ・コグニサイズ（認知症予防体操）
- ③ 展示コーナー
  - ・認知症見守り機器
  - ・介護用品機器

<対象者>

専門職員、住民

<取組みの具体的手法>

- ① 霧島市、伊佐市、始良市、湧水町の近隣事業所

に参加案内を出す。

- ② 横川町住民にはポスター掲示、チラシ回覧、職員の声かけ等を行う。
- ③ 参加者は興味のあるブースを選択し受講してもらう。
- ④ 法人職員も参加できるようにする。

<取り組み期間>

法人内の各部署から実行委員に職員を選出し、5月から実行委員会を立ち上げ始動。

<開催時間>

9時30分～15時30分

<費用>

- ① 専門職員からは資料代として500円の参加費。
- ② 住民は無料。  
事業費 1回目 200,000円、2回目 110,000円、3回目 125,000円

<参加者>

130名～160名（住民の参加は2割～3割）

<活動成果のポイント>

- ① 複数のブースから興味のあるブースを選択できる方法にしたので、自分で研修を組み立てることができた。
- ② 法人職員から受けてみたいブース案を出してもらうことで、専門職が興味のある内容のブースができた。
- ③ 住民の方々が参加できるブースを作ることで住民の参加率が上がった。



## 活動の効果と課題

<効果>

- ① 多くの専門職、地域の方々が事業所に来ることで、法人職員にいい意味での緊張感が生まれ、自分達のケアを見つめ直すきっかけにもなった。
- ② 専門職の人達はワンコインで研修に参加でき、住民の方々は無料で専門研修に参加できることを喜んでいました。
- ③ 法人職員は全員出勤であったため、多くの職員が交代で研修に参加できた。
- ④ 3回目の開催になり、毎年、参加するのが楽しみにされるリピーターの方が出てきた。
- ⑤ 研修終了後、即、現場で活かすことができる研修もあるため、参加者は技術を習得しようとする意識が高かった。
- ⑥ 参加者からそれぞれのブースはテーマがしっかりとしており、イベントの質が高いという声を頂いた。
- ⑦ 広報誌作成のブースでは初めて市職員にも講師として協力を頂くことができた。

<課題>

- ① 広報の手段はチラシの回覧等で行ったが、住民に対する声かけが事前にできていたら、もっと多くの方が集まったのではないかと。
- ② 法人内の事業所にブースを設けるため、ブースによってはスペースを十分に確保できないところもあった。
- ③ 1日の限られた時間の中で、多くの研修ブースを作るため、研修内容の選定等が難しい。

## 今後の展開

法人が所在する周辺では介護等の専門研修が開催されることが少ないため、法人施設を活用し開催していきたい。また、毎回、受講希望研修のアンケートを取っているが、今後も住民、専門職が興味のある内容で研修に参加できるような企画を考えて継続していきたい。「ザ介護」は法人が主催し開催するが、講師の先生や企業、行政等とも繋がり実施ができています。このイベントを通じて、住民や企業、関係団体の方々との交流の輪が広がるような開催を続けていきたいと考える。

社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

地域づくり 地域向けの勉強会や講習会、講演会			
ふれあい教室			
法人名	社会福祉法人正栄会	法人創立年	昭和 54 年 10 月 4 日
所在地	〒891-1103 鹿児島市川田町 1090 番地 099-298-8153		
法人理念	社会福祉法人正栄会は、各施設の一層の充実を図るとともに、利用者の個々の意思を尊重し、多様な福祉サービスを総合的に提供していけるよう創意工夫に常に務めることにより、利用者が、個々の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営んで行くことが出来るよう支援することを目的とする。	法人の実施事業	<u>介護老人福祉施設愛泉園</u> ・特別養護老人ホーム愛泉園 ・愛泉園短期入所生活介護事業（介護予防） ・はつらつ元気づくり教室事業 ・高齢者栄養改善事業 ・ひとり暮らし高齢者等短期入所事業 ・正栄会福祉有償運送事業  <u>愛泉園デイサービスセンター</u> ・通所介護事業（介護予防） ・愛のサロン ・訪問介護ステーション愛の泉（介護保険・介護予防・障害者総合支援事業） ・愛泉園訪問入浴介護事業（介護予防） ・ほほえみ愛隊「まごの手ーション」 ・まごころ訪問給食サービス ・愛の宅配弁当 ・愛泉園在宅介護支援センター居宅介護支援事業所  <u>グループホームふるさとの家郡山</u> ・グループホームふるさとの家郡山 ・デイサービスふるさとの家郡山  <u>障害者（児）通所施設アリス</u> ・ミニヨンヌアリス（児童発達支援事業・保育所等訪問支援事業） ・アミュザントアリス（生活介護事業・日中一時支援事業） ・プレザントアリス（放課後等デイサービス事業） ・ジャンティーユアリス（重症児放課後等デイサービス事業） ・エマーブルアリス（指定障害児相談支援事業・指定特定相談支援事業） ・正栄会総合相談支援センター
経営方針	（１）社会福祉法人として、高齢者及び障害者に対する福祉サービスを幅広く提供し、かつ地域住民のニーズをたえず把握するよう努めることにより、地域社会に貢献する。 （２）各施設間の情報交換を密に行うことにより、利用者の多面的ニーズに応える。 （３）利用者が各施設を健康で安心して利用できるよう、医療、保健その他の関連機関との連携を図る。 （４）施設内外の研修を計画的に行うことにより、各施設の職員及びサービスの質の向上に努める。 （５）施設の環境整備を図り、充実した福祉サービスを提供する。		

活動取り組みについて	実施主体の概要	○施設名：障害者(児) 通所施設アリス ○施設種別（定員数）：正栄会総合相談支援センター
	活動内容	○活動開始年：2004年12月 ○活動の対象者：地域の高齢者 ○活動の頻度・時間：平成28年度3回実施(10:00～11:30)
	主な経費や財源、人員等	○今回の取り組みに関わった職員数や職種名 職員数：1～2名 職種名：相談支援専門員・介護支援専門員 ○取り組みを実施している施設の事業規模 地域の公民館 ○法人全体の事業規模 法人本部拠点他4拠点事業活動 従事員数 総数 約150名



## 活動実施の背景、実施にいたった理由

郡山地区で、地域の高齢者の方々が集落で集まる場で、レクリエーション等を通じて認知症予防や身体機能の維持を目的として当法人が始めた事業。

地域の代表者の方の家を訪問し、声掛けを行い、閉じ込めり予防を目標に集落からの要望もあり始まりました。



## 取り組みの内容

認知症予防体操やらくらく体操、レクリエーションなど地域の高齢者が参加しやすく楽しんでもらえるような活動になっています。

- ・プログラム  
集落単位での活動に合わせて行っています。
- ・参加費  
無料
- ・1回あたりの参加者数  
10～20名程度
- ・スケジュール
  - ①バイタル測定
  - ②準備体操
  - ③らくらく体操
  - ④レクリエーション
  - ⑤終わりの体操

午前午後問わず公民館単位の活動に合わせて、1時間～1時間半で行っています。

- ・参加頻度  
一ヶ所の集落で、年3回の依頼があり取り組んでいます。



## 活動の効果と課題

- ・地域の方と集まって交流の場となりよかった。
- ・ここで教えてもらった体操を家でもしています。
- ・こんなふうに日頃笑うことも少ないから楽しいです。  
という声を頂いたり、介護保険の質問を受けたりしています。  
レクリエーション等を行うことにより、集落での集まりに意味付けをすることができ、閉じ込めり予防につながってきました。  
現在までに6ヶ所以上の集落で行っています。

課題として、参加する集落が少ないので活動を知って頂く為に昨年から民生委員、児童委員の定例会に参加し、活動についての紹介を行っています。

## 今後の展開

法人の活動を知っていただくように地域の寄合の場などに参加していきたいです。

高齢者の閉じこもりの防止や生活の楽しみ、生きがいづくりの場として地域に貢献できるような活動にしていきたいです。

## 社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

資源を活かした地域への展開			
生き生きセンターひまわり園			
法人名	社会福祉法人 中江報徳園	法人創立年	昭和 43 年 2 月
所在地	〒891-1205 鹿児島市犬迫町 5407 番地 2		
法人理念・経営方針	知恩報徳～人は恩の海に住む～ ① 安心安全誠実にサービスの質の向上を目指す ② 地域への公益的な取り組みを推進する ③ 人材確保のため、働き甲斐のある組織風土を目指す ④ 健全な経営・運営を旨とし継続的・安定的な事業展開を目指す	法人の実施事業	○経営施設数合計 (8事業) ○経営施設・事業 ①特別養護老人ホーム ②短期入所生活介護 ③訪問介護事業 ④訪問入浴事業 ⑤通所介護事業 ⑥認知症対応型共同施設 ⑦居宅支援事業所 ⑧生き生きセンターひまわり園(介護保険外)

活動取り組みについて	実施主体の概要	○施設名：生き生きセンターひまわり園 ○施設種別：介護保険外事業（定員数＝なし）
	活動内容	○活動開始年：平成16年5月 ○活動の対象者：概ね60歳以上健常者 ○活動の頻度・時間：個人（月・木）団体（随時）の概ね10:00～15:00
	主な経費や財源、人員等	○取り組みに関わった主な職員：2名（専属） ○取り組みに関わった補助的な職員： ○事業経費； 食事代、材料代相当分は利用者負担（1,500円/月） 人件費、通信費、会場使用料、ガソリン代等運営経費は法人負担

### 活動実施の背景、実施にいたった理由

平成16年5月概ね60歳以上の健常者が要介護状態になることなく、健康でいきいきとした在宅生活が送れるように、健康・食事・運動面で予防し、ふれあいを通して、孤独感の解消と生きがいづくり、また明るく豊かで安全な生活が続けられるよう自立支援していくという目的でスタートしました

### 取り組みの内容

主な季節行事やレクリエーションはご利用者の要望も取り入れて決めています。初詣、お花見、夏祭り、忘年会、社会見学（施設見学、博物館など）、手作り作品、勉強会（食中毒、熱中症予防、感染予防、腰痛予防など）調理、園芸、予防体操、買い物など実施しています

### 活動の効果と課題

- ① 利用者数 158名
- ② 個人利用者 32名 月・木週1回利用
- ③ 団体利用者126名（15団体）月に1～2回利用、5～10名のグループ
- ④ 個人利用者平均年齢 約85歳
- ⑤ 団体利用者平均年齢 約80歳
- ⑥ 平成16年（開設時）からの利用者数  
個人 8名 団体 11団体

#### 【内容と効果】

- ・ グランドゴルフ・・・  
5・6・10・11・12月の気候の良い時期  
その他は室内ゴルフを実施  
野外はよく歩き歩行が安定してくる  
室内ゴルフは人気があり、運動機能の維持、向上につながっている



七夕かざり、クリスマスカード他 皆で作るのは楽しみや脳の活性化、また作品をプレゼントする喜びもあり有効ではあるが、一人ずつの作品に個人差があり、時々和が保てないときもある。職員の負担も大きいところがあり苦慮している



- ・勉強会・・・  
栄養士、看護師、理学療法士の専門職によるわかりやすい説明で、時間も15～20分程度であり、病気の予防になり好評である。



- ・社会見学・・・  
年間3～4回実施、公共施設、新聞社、テレビ局を見学。1人で行けそうのない場所で見聞を広め 感性が高められると喜ばれる



- ・調理・・・  
梅干し作り、そば作りなど昔は作っていたが、現在できなくなるとなつかしがられ、残念がられる声を聴き実施している。職員も教えてもらいながら時に昔取った杵柄で得意に教える利用者様もおり笑顔のたえないワークになっている



- ・園芸・・・  
職員も育て方を聞きながら一緒に花、苗ものを育てる

- ・買い物・・・  
自分で選んで買い、支払いなども1人で済ます、社会への参加のひとこまをいつまでも続けていくことの楽しみがある。認知予防にもつながる

- ・自然散歩・・・  
季節の花を見に外出する。心が豊かになり日々の生活のメリハリにつながっている



- ・陶芸・・・  
公共施設を利用し、材料費も安価で陶芸家の指導を受けながら作成する。生まれて初めて体験する人も多く新しいことへのチャレンジで楽しく体験している



- ・予防体操・・・  
20～30分程度の脳トレーニングを毎回実施、他に棒を用いた体操、ビデオを見ながらの体操をする。認知の予防や健康増進になる

- ・室内レクリエーション・・・  
オセロゲームなどゲームに人気がある



## 今後の展開

- ① 80歳以上の元気な高齢者がほとんどで、健康維持のための予防体操を中心に、脳トレ、ゲームを取り入れてよろこびと楽しみを持って在宅生活を続けられるよう支援していく
- ② 仲間づくりの大切さを感じている  
孤独にならない、孤独にさせない工夫を今までより以上に取り組まなければならないと考えている
- ③ 対象利用者を概ね60歳以上としているが、なかなか60代、70代の方々に広報が行き届いていない現状を認識している。  
総合事業もあり、どのように展開していくか検討中である

## 社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

複数法人による連携、協働			
肝付町社会福祉法人連絡会			
法人名	肝付町社会福祉協議会	法人創立年	平成 17 年 7 月 1 日
所在地	〒893-1207 鹿児島県肝属郡肝付町新富 5589-8 (肝付町福祉会館内)		
法人理念・経営方針	<p>急速な少子高齢化や人口減少の進行、単身世帯の増加などによる人口構造の変化や、厳しい社会経済情勢を背景に、住民一人一人の自立を支え、安心して生活ができる社会基盤を再構築すべく社会保障制度の見直しも進められている。</p> <p>地域社会においては、住民間のつながりの希薄化による社会的な問題、また経済環境の変化による生活困窮者の増加といった課題が深刻化している。地域福祉推進の中核機関であるわれわれ社協関係者には、変化する地域の福祉ニーズを迅速に捉えながら、これまで積み重ねてきた取り組みを活かし、地域住民や行政・関係機関等と連携・協働しながら、あらゆる福祉課題に対応していくことが期待されている。</p> <p>そのような中、「誰もが地域の中でかかわりを持ちながら、その人らしく県下一元気で安心して暮らせる町づくり」を目指し、多様化する生活・福祉課題に的確且つ柔軟に対応するため、平成29年度の重点目標を次のとおり定め各事業に取り組む。</p>	法人の実施事業	<p>社会福祉を目的とする事業</p> <p>介護保険事業 他</p>

活動取り組みについて	実施主体の概要	社会福祉法人肝付町社会福祉協議会
	活動内容	社会福祉法人の地域における広域的な取組みを実現することを目的に町内の社会福祉法人と連絡会にて検討会を重ね、地域課題を把握し今後の活動に活かしていくことを目的に活動。
	主な経費や財源、人員等	町内の社会福祉法人実務者 各セクションでの実務者（講師）

### 活動実施の背景、実施にいたった理由

社会福祉法人の改正について町内の 10 ある社会福祉法人（社協、高齢者 3、障害 1、保育 5）の理事長（経営者）に説明した上で「法改正をどう捉えているか、現在取り組まれている活動など」のアンケートを実施。現在は各法人で担当者を設定し実務者レベル（12名）で地域にあるニーズは何か、社会福祉法人として何が出来る等協議・検討を重ねている。

### 取り組みの内容

初回と 2 回目は社会福祉法人の改正についての勉強会を開催。3 回目からは地域の実情（町が広域なため地域よっての課題）を把握することを目的に研修会をスタート。（今回は町教育委員会スクールショーシャルワーカーを招き、「町の子ども家庭を取り巻く地域課題」について研修会を行う。次回は「障害者を取り巻く地域課題」について研修を行う予定。）

各セクション（介護・医療・福祉・障害・児童など）から講師を依頼し、町の実情を把握することで各法人が取り組むことができるかもしれない活動のヒントになれば良いと考えている。これまで 3 回（初回は昨年 11 月）開催しており、今後も 3 ヶ月に 1 回のペースで行う予定。

## 活動の効果と課題


社会福祉法人以外の法人等が行っている支援（買物、移動、食事等）について、専門分野以外の話を聞く機会を作ることで、社会福祉法人が行う地域貢献のヒントになれば良いと考える。

研修会を行うことで、各法人のやれること、やりたいことが見えてくることを期待している。

## 今後の展開

今後も定期的に開催することで地域課題やニーズ、先駆的に取り組んでいる事例等を共有することでそれぞれの法人で何ができるのかという検討材料を示していければ良いと考える。最終的には自発的に取り組みが進んでいけば良い。各法人で何ができるのかという「きっかけ」を作り、活動が始まることで「地域づくり」や「地域コミュニティの創造・再生」など他のジャンルへの取り組みへも期待できるのではないかと。

## 社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

地域コミュニティの創造・再生			
 元気なうちに、人とのつながりをつくろう・歩いて行ける「街中サロン野の花」（無料） <b>人生 100 年のモデルになろう</b>			
法人名	社会福祉法人 野の花会	法人創立年	1988 年
所在地	〒897-0002 鹿児島県南さつま市加世田武田 13877 0993-52-8715		
法人理念・経営方針	「福祉文化」「介護文化」の創造 ~福祉・介護に文化を~ 地域包括ケアの時代を迎え野の花会は地域の中核となる	法人の実施事業	○経営施設数合計 8 施設（南さつま市 6、鹿児島市 2） ○経営施設・事業 3 4 事業 （南さつま市 21、鹿児島市 13）

活動取り組みについて	実施主体の概要	社会福祉法人野の花会（介護老人福祉施設・通所介護・訪問介護・訪問看護・居宅介護支援・介護老人保健施設・通所リハビリ・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護・有料老人ホーム他）
	活動内容	○2017年6月15日活動開始 ○地域（南さつま市本町近隣）にお住まいのご高齢の方々 ○毎月1回（15日頃）13:00~15:00の2時間を通して、当法人は相談会や講演、自立支援を目的とした鹿屋体育大学学長考案「貯筋運動」、茶話会などを行い、地域のお年寄りどうしの親睦を深め、一人ひとりがいつもおそばにという親しみと信頼を構築する。
	主な経費や財源、人員等	○おおよそ毎回2~3名の職員参加、(ケアマネ・ヘルパー・看護師・ケアワーカー・事務職より) (今後、自主的運営に移行したい) ○初回の経費としては、広報料(折込チラシ)として約30万円 ○法人全体としては、8施設・34事業を運営、スタッフ380名、自主運営になるまではスタッフ2~3名で支援する。

### 活動実施の背景、実施にいたった理由

これまで野の花会は「あなたを生涯支えます」をモットーに8施設34事業を運営して、地域でお年寄りを支える様々な取り組みを行ってきましたが、南さつま市地域の高齢化率が30パーセントを超え、また独居のご高齢の方が多い中、心の支えになる集いの場をつくりたいという思いで「サロン野の花」を企画しました。

2006年、南さつま市で老健創設時に老健の医師を中心に認知症予防教室と転倒予防教室をはじめましたが、これがアルテンハイム隣接のクリニックに移り、当時認知症の第一人者であった金子満雄医師による県ではじめての認知症外来につながり、県外からも受診者が来院しました。

今回はその概念から少し離れて独居の方が多い南さつま市に新しい試みを行いました。独居の場合は一日中又は一週間も誰も

話さず過ごす方も多く、閉じこもりの方も多い現状もありました。

今回の「サロン野の花」を開設した一番の理由は、こういう方々が気軽に徒歩で行ける場所に交流の場を設けて、仲間をつくり、会話や運動、脳活性に役立つ買い物等を行っていただくことです。当サロンは買い物のついでに気軽に歩いて立ち寄れるような国道270号沿いの街中にあります。



郵便局やJAの近くにある当法人の介護保険相談センターの1Fスペースを活用して実施しました。

（左は会場で皆様を迎えるびんころ地蔵）



会場の介護保険相談センター  
（街中にある）

### 取り組みの内容

会場フロアでは少人数でも、互いに会話が出来る環境を作りました。認知症相談や貯筋運動その他多くの催しにも自分で選択して取り組めるよう、自己選択・自己決定をアルテンハイムで行っている「夢のみずうみ村方式」をとり入れました。よくあることですが、例えばこういう集いの場を設け、理学療法士が出向いて高齢の皆様と話をして体を動かしても、その時ばかりで自宅での継続

が難しいというケースがほとんどのことでした。運動を歌のリズムにあわせて身近にある椅子につかまり、自宅でも行えるよう法人が平成19年より実施している「貯筋運動」（前鹿屋体育大学学長の福永哲夫氏提唱・今まで2回お招きして地域向け講演の中で来場の方々にご指導していただきました）を会場の皆様と一緒に行いました。途中で、法人の通所サービスで活躍しているコミュニケーションロボット「パルロ君」も参加して、会話を楽しみながら楽しいひと時をお過ごしいただきました。次回からはご自分で作られたお菓子やパン・小物などを持ち寄って販売するコーナーも設け、脳活性に役立つよう取り組みを行います。



ご本人ご家族の質問にお答えします。プライバシーにも配慮し、個室も用意しています。  
写真は認知症についてお答えする前認知症を支える家族の会鹿兒島支部会長の水流さん



懐かしい着物や家具などを見て昔を回顧する

#### 【実施した内容】

- ・介護相談（質問に専門の者がお答えします）
- ・自宅にあるものを活用してできる貯筋運動
- ・パルロ君とおしゃべり
- ・ボランティアの方のハーモニカによる懐かしのメロディ演奏

### 活動の効果と課題

第1回目として6月15日の午後1時から開催し、31名の方々に来ていただきました。少し会場が手狭な感じになりましたが、盛況でした。見知らぬ方々とも楽しく会話をし、お互いに久

しぶりに会ったという方もいらっしやって、「又来月も楽しみにしています」と帰っていかれました。これを野の花会の地域貢献の一環として継続していきます。さらに地域にもっとこの活動の周知を図り脳活性・自立支援に役立つもの、今後この町で老いていく方々に不安なくお過ごしいただけるよう努めて「我こそ人生100年のモデル」として人生100年丸に乗り遅れないように、日々豊かに尊厳のうちに生活していただくことを目的としています。

### 今後の展開

～介護されているご家族について、介護離職に「おまちなさい」と親身になり、「ながら介護」「共に介護」の勧めで介護不安の解消につとめています～

基本的に毎月15日に同じ会場（介護保険相談センター）で13時から行う予定です。次回から毎月以下のような展示も準備しております。お楽しみにおでかけください。

- ・懐かしい着物でつくる春夏秋冬の服  
（タンスに眠る着物の活用）
- ・おひな様と美しいこどもの着物
- ・お節句と男児のきもの

等、回想法につながる多くの展示や催しを行っていきます。来ていただいた方のご希望もききながら、プログラムを豊かにしていきたいと思っています。



ハーモニカ演奏のお申し出があり来ていただき懐かしい歌をうたいながら楽しく過ごしました



感性豊かな表現と会話でコミュニケーションロボット・パルロ君は皆の人気者です